

第 70 回がん対策推進協議会 委員提出資料

2018 年 8 月 30 日

秋山 正子

都道府県別の平均寿命（2015 年）のデータから読み取れる禁煙活動の効果について

長い間、長寿一位を誇る長野県が滋賀県に首座を譲った。（表参照）

滋賀県が 81.78 歳 長野県 81.75 歳と差はほとんどないが、順位が入れ替わった。

滋賀県は、男性の喫煙率が 2000 年には、全国平均より、8.8 ポイント高い 56.2% という状態であったが、2009 年には、全国平均並みになり、2016 年には全国平均より 9.1 ポイント低い 20.6% で。全国一低い県となった。

滋賀の男性の肺がん死亡率は、2000 年には高い方から 1 位だったが、2015 年には 21 位まで改善した。

喫煙率の減少は見事に、肺がん死亡率に反映され、ひいては健康長寿の指標とされる平均寿命をも一気に延伸させたと分析されている。（毎日新聞 3 月 4 日「滋賀、禁煙啓発が奏功」、3 月 7 日「社会活動で健康維持」より）

この喫煙率の低下がなぜ実現できたのか？

2000 年の喫煙率の高さに危機感を持った滋賀県が、2001 年には県の健康施策として、指標を「喫煙率（56.2%）を半減させることが望ましい」と努力目標を立て、「健康しが たばこ対策指針」を策定。禁煙支援や、防煙などを掲げて具体的な健康づくり運動を始めた。

自治体の数値目標自体が珍しく、初めは、たばこ業界からの反発もあったと言われる。

2004 年には、禁煙や完全分煙を行う飲食店を「受動喫煙ゼロのお店」として登録して啓発に役立てる制度も始めた。

2001 年からの息の長い運動の成果が見事に花開いたと考えられるが、行政の担当者が変わっても、これを引き継ぎ、努力目標を掲げ続けられたことに、持続可能な、かつ実現可能な参考にするべき活動と思い、数字を示した表の資料と共に提出する。

男性長寿日本一(2015年)になった滋賀県 その背景

2015年 都道府県別平均寿命 男性 ベスト5

順位	都道府県名	男性の平均寿命
1	滋賀	81.78
2	長野	81.75
3	京都	81.40
4	奈良	81.36
5	神奈川	81.32

長野県を抜いて
1位となった

厚生労働省 2017.12発表

着目点2

肺がん死亡率 男性 2015年

滋賀県 21位 39.2%



肺がん死亡率 男性 2000年

順位	都道府県名	年齢調整死亡率 (人口10万対)
1	滋賀	56.1
2	長崎	55.9
3	沖縄	55
4	大阪	54.7
5	青森	54

厚生労働省人口動態統計特殊報告

着目点1

男性の喫煙率の低い都道府県2016年

	都道府県名	男性の喫煙率(%)
1	滋賀	20.6
2	奈良	22
3	大分	25.3
4	兵庫	25.8
5	徳島	26.3

2016年 厚生労働省 国民健康・栄養調査
現在習慣的に喫煙している者の割合(20歳以上、男性、都道府県別、年齢調整値)より

滋賀県の男性喫煙率の推移と県の取り組み

2000年 56.2%(全国平均より8.8ポイント高い)



2001年 半減努力目標(健康増進計画)
2002年 健康しがたばこ対策指針
2004年 受動喫煙ゼロのお店 登録開始

2009年 38.4%(全国平均38.2%)
2016年 20.6%(全国平均29.7%)

⋮